



国連広報センター所長

根本 かおる

SDGsとデザインの力

嬉しいニュースがあった。7月に持続可能な開発目標（SDGs）推進について若手起業家とパネル・ディスカッションを行った際に、水循環を用いた次世代の分散型水インフラの研究開発・事業展開を行うWOTAの前田瑠介さんと一緒にしたが、同社の自立分散型水循環システム WOTA BOXが今年度のグッドデザイン大賞を受賞したのだ。

深刻化する一方の気候変動の影響を受けて、気候関連災害が強度・頻度を増している。日本を含めその被害を受けている。この「持ち運べる水再生処理プラント」を使えば、上下水道が断水しても、水循環のシステムで限られた量の水

未来を 変える

で被災した人々にシャワーなどの機会を提供することができる。さらに、災害時を越えて、水や電気などのライフラインが整っていない場所に長く滞在することに道を開くことになるだろう。コスト面では日本のような先進国での使用が中心になるのかもしれないが、世界人口の4割を超える人々が水ストレス下で暮らし、今後水不足の深刻化が見通される中、将来的に途上国の深刻な水不足を解決するソリューションにつながることを願っている。

私はかつて国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）の職員として長年インフラが整わない僻地で難民・避難民に寄り添う活動を経験してきたが、被災・避難という苦しく不安な状況の中で、シャワーを使えるということ、さらにそれが「使ってみよう」と思わせるスタイリッシュでコンパクトなデザインであることは、わずかもかもしれないが人々の心にポツと灯りをともすことになるだろうと思う。

「使ってみよう」水再生装置に感動



携帯用ソーラー・ライト「リトルサン・ダイヤモンド」（根本かおる撮影）

ソーラー・ライトも心癒やす

デザインが与えてくれる心のゆとりを私が実感するのが、在宅勤務の一日の終わり、ベランダのデッキチェアに座り、現代アーティエアのオラファー・エリアソンがデザインした携帯用ソーラー・ライト「リトルサン・ダイヤモンド」の明かりのもと、ビールを飲む。太陽光発電の製品は世に溢れているが、オラファー・エリアソンのデザイン性が高い携帯用ソーラー・ライトは、まるで小さなアート作品だ。

み、一息つく瞬間だ。もちろん大量生産されたものだが、ダイヤモンドのようにキラキラ光るソーラーの明かりは、まるで小さなアート作品だ。

太陽光発電の製品は世に溢れているが、オラファー・エリアソンのデザイン性が高い携帯用ソーラー・ライトは、まるで小さなアート作品だ。

イトは、先進国での売り上げをアフリカ諸国への輸送費にあて、先進国とアフリカとは異なる価格で売り出している。電気のない地域で暮らす人々にクリンな明かりを届けることによつて、それまで照明のために使われていた灯油を燃やさずに済み、さらに人々は灯油を買う必要がなくなつて、そのお金を他の目的に使うことができるようになる、というものだ。

ねもと・かおる 86年（昭61）東大法卒、同年テレビ朝日入社。米コロンビア大学大学院国際関係論修士修了。96年から国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）で難民支援活動に従事。世界食糧計画（WFP）広報官、国連UNHCR協会事務局長なども歴任。13年から現職。神戸市出身。